**「Withコロナの今」に生きる・・・・・･････**

４月７日（火）、やわらかな陽光に包まれて「令和２年度」が始まりました。「入学式・始業式」を行い、クラス担任が発表されましたが、翌日から「臨時休校」に入りました。生徒の皆さんはほぼ２か月、「自宅学習」の期間となり、「新型コロナウイルス感染拡大防止」のための数々の対応に取り組みながら、「西中Web授業」や「学習課題」など一人一人ができることを地道に頑張りました。５月２５日（月）からの「分散登校」、そして、６月１日（月）からの「学校再開」となってからは、「密」になることを避けて、徐々に「通常の学校生活」を取り戻しながら、クラス・学年のつながりを強めてきました。

今日、こうして令和２年度第１学期の終業式を迎えますが、いつもより終わるのが遅く、長いと感じる１学期だったのか、実質２か月間の短い１学期と感じたのかどちらでしょうか？

ここ数日、東京圏・関西圏の「感染者数」は増加の一途です。この愛知県も予断を許さない状況が続いています。例年ならば３年生の最後の「部活動」の大会も終わり、多くの生徒が「進路選択」のステージに向かっている時期でもあります。「修学旅行・野外活動」さえも、今年度はまだ終わっていません。まったく、この「令和２年度」は、誰もが経験したことがないことの連続でした。そして、これからも経験したことのない道を歩いて行かなければなりません。「Withコロナの時代」に、すべての人が生きていくために必要なことは何なのでしょう。

　　この令和２年度の１学期始業式は、体育館に全校生徒が集まることを避け、各クラスのテレビで視聴する「放送始業式」でした。その中で式辞として生徒に向けて話したことは「NOW」です。

校訓『今に生きる』の「今（NOW）」です。

N：「仲間を広げよう」…新しい環境の中で、信頼と励ましで結ばれる仲間を大切にしよう。

O：「大きな思いやりの心で」…人は一人では生きていけない。周りに壁をつくらず、皆で助け合おう。

W：「私から笑おう」…笑顔の周りには幸せが集まります。自分だけでなく、すべての人が幸せに。

こうして１学期が終わる今、思い起こすのは「学校」という建物の中で繰り広げられる「人と人のつながり」の中にこそ、「教育活動」の大切なもの、学ぶことのすべてが詰まっているのではないかということです。いつもの年であれば「当たり前」に行われていたことが「当たり前」ではなかったと気付かされた今年。今まで「当たり前」にできていたことが、どれだけ「有り難い」ことであったのか分かった今年・・・・・・・。

福井県の禅寺・吉峰寺（きっぽうじ）の住職：関　大徹　老師は、

「なぜ？」という日本語は物事の原因を究明しようとする理性的な言葉だが、「なんで？」は原因を究明する質問ではない。自分の「気持ち」である。 目の前で起きている現実を受け止めきれない気持ちが「なんで？」という言葉になる。 苦しみや悲しみが伴う現実に直面した時は「なんで？」という言葉で自問し、他人に向けて発せられる時には叱責の気持ちが含まれている。 昨今、予期せぬ災害がもたらすつらい現実に「なんで？」と叫びたくなるが、向ける相手はいない。気持ちを切り替え、前向きに「有り難い」と考えられたらいいのだけれども。

もちろん、災害だけではなく、「人生全般」にもいえるだろう。 目標を掲げ、それに向かって努力する。目標が達成できたら嬉しいが、達成しなくても、「その目標があったおかげで努力させていただけた」「その努力のおかげで充実した人生になった」と考えるのである。 たとえば、病気が治ったら嬉しいが、治らなくても「病気そのものに何か意味があるのだろう。それもまたよし」と考える。志望する大学に合格できたら嬉しいが、不合格でも「悔いがない」と言えるほどの努力をしてきた自分をよしとする。

と、語っておられます・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

この「コロナ禍」の１学期、「進路選択」や「部活動」の「有り難い」出来事をプラスの意味にするためにも、そして、令和２年度の本校が「Withコロナの今」に生きる時代とするために、次に登校する８月２５日（火）まで有意義な「NOW」を過ごしてください。

まずは健康に気を付けて、この夏休みを有効に使って、プラスの「有り難い」を見つけていきましょう。

文責　校長　平山　雅之